



武士道とは

11月12日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

11月12日のおはなし「武士道とは」

ぼくが髪を伸ばしている理由は、しばしばヒッピー・ムーブメントと結びつけられて解釈されてしまいがちなのだが、それは違う。決してそういうわけではない。確かに長さといい、髪のカセといい、何もせずにはらりとおろすと、そのまま『ウッドストック～愛と平和と音楽の三日間～』のフィルムの中におさまっていても何ら不思議はない。60～70年代を引きずっている男などと言われることもよくある。でもそういうことではないのだ。

本当の理由は鬘を結うためだ。鬘というのは一般に「ちょんまげ」と呼ばれているあれだ。さすがに仕事もあるので月代（さかやき）を剃るということはしないが、基本的にぼくの髪は後頭部高くまとめて二つ折りとしている。武士としてはいささかメインストリームをはずれた髪型である。つまり、浪人が伊達者のような。とは言え、心は常に一人の武士たらんと欲している。そう。ぼくは反体制的なかっこうをつけた甘ちゃんのヒッピーなどではない。ストイックな求道者なのだ。

座右の銘はもちろん、かの名著『ハッパに隠れて』から「武士道とは、死ぬことと三つ蹴ったり四つ蹴ったり」だ。深遠なフレーズなので、いまだ何を意味しているのか定かではないものの、後半の「三つ蹴ったり四つ蹴ったり」という部分は、推測するに、現在のサッカーと何らかの関係があるのではないか。サッカーは死と隣り合わせた、武道の探求者にこそふさわしい競技である。

サッカーと武道の関係とは何か。即ち、サッカーボールとは死者の生首であり、死霊を意味している。このことは、しばしば耳にする「球が生きている」といった表現からも類推することは容易である。死霊であるところのこの生首を、蹴鞠（けまり）の技術をもって巧みにコントロールし、相手が大切に守る聖域に送り込むということは、即ち相手方の構築する世界を根底から覆そうとする呪術にほかならない。

嘘だと思う人は冷静になって考えてみて欲しい。手が使えないというのは、まさに不浄の死霊であるナマ首に直接触らぬためにほかならず、「シュート（射撃）」、「サドンデス（突然死）」といった用語にも、死との密接なつながりが窺い知られる。常に死を思い、生と死の狭間において、世界の構築と解体を行う。これこそが現代に於ける武士道の実践なのである。

このようなぼくの決意を読みとってくれるのは意外にも日本人ではなく、日本に住む外国人の方である。彼らはピッチを走るぼくに「サムライ！」と声をかけてくれるし、時にはサインを求められることすらある。金髪で青い眼をしたぼくを見て、武士道の体現であることを見抜くことができるのが外国人だけしかいないということこそ、この国の抱える最大の問題なのではなからうか。

（「サムライ」 ordered by kyouko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

武士道とは

<http://p.booklog.jp/book/37976>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37976>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37976>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.